

現地を訪問して想うこと

福島県スパリゾートハワイアンズコース

福田 豊

天災と人災に見舞われた福島を視察して抱いた感想は、「筆舌に尽くし難い」と言う一言でした。又「百聞は一見に如かず」と言うことを改めて認識させられ、生涯記憶に留まる貴重な体験でした。

現在東日本大震災被害の復興に携わっている霞ヶ関の官庁職員は、是非現地を自分の目で見て、又、被災された住民の要望を直接聞くべきだと思う。そうすれば「霞ヶ関文学」を作成することのみに汲々とする必要がなくなると思われますが・・・

今回の東北応援ツアーで立ち寄った施設での研修会では、3月11日の大地震発生時の生々しい状況を説明して頂き、ただただ驚嘆するばかりでしたが、復興段階での心温まる話には、感涙しました。

原発事故については、本来このような国家的事業を遂行するには、「想像すらできない状況を敢えて想像し、最悪の事態に備える」ということが必要なのに、それを怠ったことに起因している。線量計を持ち歩く生活状況というのは明らかに異常事態と言わざるを得ない。

最後に、私は今回の災害で過去の歴史を謙虚に学ぶ必要性を痛感し、又、福島の校友が言われた「私たちに忘れないでください」という言葉は、深く印象に残り、今後自分なりに対応していかなければならないと思った次第です。